

2019年11月2日

卵子提供・代理出産で家族をつくる

卵子提供・代理出産で家族をつくる

日時：2019年11月2日(土)
13:00-17:00

場所：日本科学未来館 7階 海王星ルーム
東京都江東区青海 2-3-6

- セミナーへの参加費は無料、どなたでもご参加できます
- 当館の常設展、企画展への入場は別途料金がかかります。
- 情報交換会へのご参加は当事者のみ
- お名前と連絡先を添えて、申し込みをお願いします。
- 席に限りがありますのでお早めにお申し込みください

13:00-13:40 清水 直子 *Shimizu Naoko*

(さくらライフセイブアソシエイツ代表取締役)

「生殖医療の進歩は選択肢を広げる：代理出産/卵子ドナー/精子ドナー」

13:40-14:20 日比野 由利 *Hibino Yuri*

(金沢大学大学院医薬保健学総合研究科)

「卵子ドナー、代理母、依頼親、子どもたちのコミュニティ」

14:30-17:00 情報交換会

※電子メールでお申し込みください。

[主催・申込先]

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科
日比野由利

tel. 076-265-2218 fax. 076-234-4233

hibino@staff.kanazawa-u.ac.jp



清水直子 Shimizu Naoko

「生殖医療の進歩は選択肢を広げる:

代理出産/卵子ドナー/精子ドナー」

日本にもグローバル化の波が押し寄せており、多様性を容認するような雰囲気以前よりも増している。過去には社会的に容認されにくかった様々な選択肢が、当事者の意思によって広がりつつある。精子や卵子の提供、代理出産といった治療は、歴史が浅く日本では馴染みがなく情報が少なかったこと、日本の閉鎖的な環境から受け入れられなかったが、次第に、方法論の広がりを受け入れる観念が広がってきたことにより選択肢として考えられるようになってきている。代理出産に関しては、当方法論使用以外には子を授かることが難しいケースの患者にとっては有効な方法である。近年までは、新興諸国で低廉な価格で依頼することが可能だったため、依頼者が世界中から殺到し、利用していたが多くの社

会問題が発生したことから代理出産を制限したり、禁止する法律が多くの国で設定された。現在は米国と東ヨーロッパなどの国々が受け入れ可能だが、費用面で手が届くプログラ代理出産プログラムは、次第に選択肢が少なくなってきたのが現状である。代理出産のプロセスは複雑で様々なリスクを孕んでおり、国外での治療に際しては、依然として正確な情報取捨は欠かせない。一方、配偶者卵子提供に関しては、匿名性が高いため、依頼者が選択したドナーと実際に提供される卵子の同一性が保証される環境で行われるのが望ましい。

卵子提供や代理出産などの第3者介入の生殖医療のコンサルタントに関わって10年近くが経過し、当コンサルテーションも第1次世代から第2次世代へと移行してきている。第一次世代で第3者介入の生殖医療から誕生した子供たちが学校へ上がり、学校での諸々の公的登録や書類を子供が目にする時期に入ってきた。第一次世代で子を授かった親たちは、これをどう説明するか、が新たな問題として浮上している。第3者介入の生殖医療を利用してなんとしても子を授かりたい、としていた時期が過ぎ、子の成長とともに、当初、考えもしなかった重要な課題である。

近年、アメリカでは祖先を知るため等の目的で新しい遺伝子検査の商品が市場に出てきた。自分のルーツを知りたい、とこのサービスを利用する人が急増している。これらの遺伝子検査の結果を見れば、配偶子提供の利用は、一目瞭然であるため子どもをもうける時点では、当事者にとって切実な願いでそのことに集中しがちであるが、「その先」の問題として、子への告知をどのように考えるかは親にとって避けては通れない道である。



生殖医療の進歩は 選択肢を広げる

21世紀の世界は変わってきた
伝統や習慣の超えて自分らしく生きることができる時代へ

そして弊社の生殖医療プログラムも第2次世代へと

生殖医療の進歩は選択肢を広げる FIRST GENERATION (第一世代)からの視点

アメリカの最近のルーツの商品



Ethnicity Estimate	
Japan	50% >
England, Wales & Northwestern Europe	31% >
Germanic Europe	8% >
Norway	7% >
Ireland & Scotland	4% >

生殖医療の進歩は選択肢を広げる FIRST GENERATION (第一世代)からの視点

いろいろなツールが市場に出てきている

SECOND GENERATIONへどう伝えるかの方針
(第2世代)

日比野由利 Yuri Hibino

「卵子ドナー、代理母、依頼親、子どもたちのコミュニティ」

配偶子提供や代理出産は、技術的には難しいものではない。しかし、第三者が関わるという点で、心理的・社会的にどうしても難しい問題がつきまとう。精子・卵子提供であれば、ドナーと子どもの間には遺伝的關係が生じ、ドナーは子の遺伝形質に 50%の影響を与える。一方、産みの關係も見えにくいと同様のことが生じる。胎内環境は出生後も子の心身に影響を与えている。こうした特性を考慮すると、生殖に関わった第三者の存在を、完全に消すことは不可能である。さらに近年、「出自を知る権利」が周知されるようになり、出生に関わるこの重要な事実を(最も主要な当事者である子に対して)秘匿し続けることは、倫理的ではないという見方も高まっている。現在、配偶子提供や代理出産は、商業的な形態が主流となっており、エージェントが介在することによって、両者は隔てられ、プロセスが終了した後は、依頼者の脳裏から第三者の貢献が忘れ去られがちである。卵子提供や代理出産を単なる商行為や契約關係としてではなく、人間關係のなかで行われる行為として捉える必要がある。オープンな考え方を取り入れ、依頼者家族とドナーや代理母が交流することは、子の出自を知る権利を承認し、子の誕生に関わった人々への敬意を示すことを意味する。その結果、配偶子提供や代理出産に関わるスティグマが取り除かれ、依頼親にとっても良いフィードバックが期待できると思われる。

生物学的つながり

- 妊娠・出産する女性と胎児との間には、遺伝的つながりがなくても**エピジェネティクス**や**マイクロリズム**などの生物学的メカニズムを通して影響を与えあっている。
- Cf. 「他人の卵子で妊娠した子どもに、産みの母親の遺伝子が伝わる」(エキサイトニュース)
- 出典:[Vilella F. et al. Hsa-miR-30d, secreted by the human endometrium, is taken up by the pre-implantation embryo and might modify its transcriptome. Development 2015 142. 3210-3221.](#)

早ければ早いほど抵抗なく受け取ることができる(1)



「卵子提供で生まれた娘と母親の会話
～tellingをめぐって～」
『生殖テクノロジーとヘルスケアを考
える研究会[忘備録]』(2016年5月16日)

- (母親)あなたたち(※娘と息子の双子)がegg donor babiesだと教えたときのこと覚えてる?
- (娘)自分が卵子提供で生まれたことをいつ知ったか、覚えていない。あなたはegg donor childだといわれ、それをdonut babyだと勘違いして、ドーナツ店で生まれたのかと思っていたくらい。
- (母親)早く子どもに伝えることはメリットがあると思う。後から悪い状況の中で知らされることを心配しなくていい。早く伝えることで子どもはそのことについて十分に考えているので、他人から何か言われても動じなくて済むから。
- (娘) そう。それは全然恥ずかしいことではないし、むしろ自慢できることだと思う。

代理母と依頼者



- **Rachel (代理母)**

- 代理母としても依頼者のことをよく知らないといけないと思うの。同じページにいるかどうか、確認する必要があるわ。その中には難しい問題も含まれている。それは中絶とか、もっと悪いシナリオもありえる。
- 障害がある子供が生まれたら、それはもっと大変。人の気持ちはその都度変わるものだから、いつも確認しておかなければならない。代理出産はやはり、別の人間が人生に関わることになるので、とても難しい面があるのは事実。
- 代理出産に関しては、ちょっと美化されている嫌いがあると思う。実際にはもっと難しい面も多い。後悔はないけど、もう少しマシにできたのではないかと後から考えることもある。
- 私の心配は、私がここでこうやって話すことで、私たちの例が、ゴールドスタンダードになってしまうこと。それから、新しい代理母を見つけたとき、その彼女との関係はまた違ったものになるだろうということ。
- 「代理母と依頼親のパネル～代理出産カンファレンス in メルボルン」 『生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会[忘備録]』 (2019年8月25日)

(まとめ 日比野由利, HIBINO yuri)